

問1 地形図において河川が流れる方向（流向）を判断する際、等高線の形状は重要な手がかりとなります。河川が等高線を横切る箇所、等高線が山側（標高が高い方）に向かって「く」の字や「V」の字のように凸状に曲がっている場合、その地形の名称と河川の流れる向きについて正しく説明しているものはどれですか。 (2020年 兵庫公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. その地点は谷にあたり、河川は等高線が凸状に突き出している方向とは逆の方向に向かって流れている。 | 2. その地点は尾根にあたり、河川は等高線が凸状に突き出している方向と同じ方向に向かって流れている。 | 3. その地点は谷にあたり、河川は等高線が凸状に突き出している方向と同じ方向に向かって流れている。 | 4. その地点は尾根にあたり、河川は等高線が凸状に突き出している方向とは逆の方向に向かって流れている。 |
|--|--|---|---|

問2 三重県の志摩半島や福井県の若狭湾周辺に見られる、かつての山地の谷が海に沈むことで形成された、複雑に入り組んだ海岸線の名称を何とといいますか。 (2018年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|-------|---------|--------|
| 1. リアス海岸 | 2. 砂州 | 3. 海岸段丘 | 4. 干拓地 |
|----------|-------|---------|--------|

問3 リアス海岸では、その「入り組んだ地形」という特性を活かして、海藻や貝類の養殖が盛んに行われています。この地形が養殖業に適している理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 滋賀公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 奥行きのある深い湾が連続し、周囲を山に囲まれているため、外洋の影響を受けにくく波が穏やかだから。 | 2. 河川が運んできた土砂が河口付近に堆積し、栄養分の豊富な広大な浅瀬が形成されるから。 | 3. 潮の満ち引きの差が非常に大きく、干潮時に広大な干潟が現れるため作業がしやすいから。 | 4. 海岸線が直線的で遮るものがないため、黒潮などの暖流が直接湾内に入り込み水温が安定するから。 |
|---|--|--|--|

問4 日本の地形の特色について述べた文として、正しいものを次の中から選びなさい。 (2014年 和歌山公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 日本アルプスの東側には、日本列島を東西に分けるフォッサマグナと呼ばれる帯状の地域がある。 | 2. 日本列島の中央部には、西日本を南北に分けるフォッサマグナと呼ばれる巨大な断層がある。 | 3. フォッサマグナは日本で最も高い山脈の名称であり、その東側と西側で気候が大きく異なる。 | 4. 日本列島を東西に分けるフォッサマグナは、九州地方から関東地方まで続く一本の断層線である。 |
|---|---|---|---|

問5 中部地方から近畿地方にかけての沿岸部にある志摩半島では、複雑な形状の海岸線が発達しています。このような地形の成り立ちと特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 石川公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 山地が沈降してできた深い入り江は波が穏やかであり、真珠などの養殖に利用されている。 | 2. 河口付近に土砂が堆積してできた平坦な地形で、水はけが悪いため主に水田として利用される。 | 3. 沿岸流によって運ばれた砂が細長く突き出すように堆積しており、景勝地として知られる。 | 4. 浅い海を堤防で囲って水を抜き、人工的に陸地を広げた場所であり、大規模な農地となっている。 |
|--|--|--|---|

問6 日本の東の太平洋上で、南から北上する暖流の日本海流（黒潮）と、北から南下してくる寒流の千島海流（親潮）が合流する付近は、世界的な好漁場として知られています。この海域の名称とその特徴についての説明として適切なものはどれですか。 (2019年 愛媛公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--------------------------------------|---|--|
| 1. 潮目（潮境）と呼ばれ、暖流と寒流の魚が混じり合い、プランクトンも豊富である。 | 2. 大陸棚と呼ばれ、水深が浅く日光が海底まで届くため、海草がよく育つ。 | 3. リアス海岸と呼ばれ、海岸線が複雑に入り組んでいるため、養殖に適している。 | 4. 排他的経済水域と呼ばれ、沿岸国が水産資源や鉱物資源を管理できる権利を持つ。 |
|---|--------------------------------------|---|--|

問7 川が山間部から平地に流れ出た場所に形成される扇状地の土地利用について、地形的な特徴と農業の関係を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2019年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 等高線の間隔が広く、ゆるやかな斜面が広がる場所は、砂や礫が堆積して水はけが良いため、果樹栽培に利用されることが多い。 | 2. 等高線の間隔が狭く、急な斜面が続く場所は、日当たりが良いため、山の斜面をそのまま利用して茶の栽培が行われることが多い。 | 3. 等高線の間隔が広く、平坦な場所は、地表に水が残りやすく湿地になりやすいため、主に稲作地帯として利用される。 | 4. 等高線の間隔が狭く、複雑な地形をしている場所は、強風を防ぎやすいため、ビニールハウスを用いた促成栽培が行われる。 |
|---|--|--|---|

問8 新潟県の佐渡島、沿岸部、内陸の山間部における冬の降雪量の特徴を比較した説明として、正しいものはどれですか。 (2018年 静岡公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 湿った季節風が標高の高い山々にぶつかることで上昇気流が強まるため、内陸の山間部で最も降雪量が多くなる。 | 2. 季節風は海に近いほど水分を多く含んでいるため、内陸の山間部よりも佐渡島のほうが圧倒的に降雪量が多くなる。 | 3. 暖流の影響を直接受けるのは海岸線であるため、佐渡島から沿岸部、山間部へと内陸に進むにつれて降雪量は減少していく。 | 4. 日本海側では平地ほど気温が低くなりやすいため、内陸の山間部よりも、佐渡島や沿岸部の平野部で雪が降りやすくなる。 |
|--|---|---|--|

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
その地点は谷にあたり、河川は等高線が凸状に突き出している方向とは逆の方向に向かって流れている。
- 地形図上で河川が流れている場所は、周囲よりも標高が低い「谷」になっています。等高線は同じ標高を結んだ線であるため、谷を横切る際には必ず標高の高い方向（上流側）に食い込むように曲がります。したがって、等高線が凸状に突き出している先が上流、その反対側が下流となるため、河川は突き出している方向とは逆（標高が低い方）に向かって流れます。
-
- 問2** **答え 1**
リアス海岸
- 起伏の多い山地が沈水したり、海面が上昇したりすることで、谷の部分に海水が入り込んで形成される地形です。近畿地方付近では志摩半島や若狭湾が代表的であり、他にも東北地方の三陸海岸南部などが有名です。
-
- 問3** **答え 1**
奥行きのある深い湾が連続し、周囲を山に囲まれているため、外洋の影響を受けにくく波が穏やかだから。
- 養殖業を営むには、いかだや網などの設備が壊れないよう、波の静かな水面が必要です。リアス海岸は、かつての谷が沈んでできた深い入り江が陸地の奥まで入り込んでいるため、外洋の強い風や波が遮断されます。この天然の防波堤とも言える構造が、安定した養殖環境を提供しています。
-
- 問4** **答え 1**
日本アルプスの東側には、日本列島を東西に分けるフォッサマグナと呼ばれる帯状の地域がある。
- フォッサマグナは、山脈や断層線そのものを指す言葉ではなく、日本列島を東西に分断する「帯状の地域」を指します。混同されやすい中央構造線は、主に西日本を北側（内帯）と南側（外帯）に分ける巨大な断層のことを指します。
-
- 問5** **答え 1**
山地が沈降してできた深い入り江は波が穏やかであり、真珠などの養殖に利用されている。
- リアス海岸は、山地が沈降して谷の部分に海水が入り込んでできたため、水深が深く、複雑に入り組んだ海岸線を持っています。このため、外海の荒波の影響を受けにくく、真珠やカキ、ワカメなどの養殖に適しています。他の選択肢は、三角州、砂州、干拓地についての説明です。
-
- 問6** **答え 1**
潮目（潮境）と呼ばれ、暖流と寒流の魚が混じり合い、プランクトンも豊富である。
- 性質の異なる海流がぶつかる場所では、海水が上下にかき混ぜられることで海底の栄養分が浮上し、プランクトンが大量に発生します。そのため、それらを餌とする魚が集まる豊かな漁場となります。
-
- 問7** **答え 1**
等高線の間隔が広く、ゆるやかな斜面が広がる場所は、砂や礫が堆積して水はけが良いため、果樹栽培に利用されることが多い。
- 扇状地は、山地から流れてきた土砂（砂や礫）が堆積してできた地形で、水が地下に浸透しやすいため「水はけが良い」という特徴があります。地形図において等高線の間隔が広い場所は傾斜がゆるやかであることを示しており、こうした場所では排水性の良さを活かしてブドウやモモなどの果樹栽培が盛んに行われています。
-
- 問8** **答え 1**
湿った季節風が標高の高い山々にぶつかることで上昇気流が強まるため、内陸の山間部で最も降雪量が多くなる。
- 地形と降雪量の関係において、上昇気流の発生が重要な鍵となります。日本海を渡ってきた湿った季節風は、佐渡島や沿岸部のような平坦な場所では雲が十分に発達しきれず、降雪量は限定的です。しかし、内陸にある標高の高い山地にぶつかると、強制的に強い上昇気流が発生して厚い雪雲が作られるため、山間部の降雪量は沿岸部よりも圧倒的に多くなります。